

大火あり一はあつせり○十一月青山梅窓院の齋齋を焚毀ん
とせし時住持清蓮社共衆鏡的上人の愛小於女房の赤畜牙
あつて佛果を得て一は焼て一面の鏡を推す是より刻くは是を
加へて鏡を鑄かゝる解脫を以るの因縁ともあるべしと云ふと
して爰嘗て後例も一面の鏡あり上人亭其のあひをわすしこの
鏡をかゝる鑄改むと云ふ

○十二月十九日未子別神田小柳町つゞき真田お中を赤と
お火也為凡烈一々半町石町八丁堀靈巖浄海もあつて長干
五町幅之尺町より七八町もあつて翌日及別鏡

○年中七面板七面大明神勅請勅請の事ありては命の位

世年間記事

宝永中靈愛ふと門て南形原の月ふまへる像の園慶金江戸
金地院境内に移す

○宝永中疫癘を平一以約込の百姓をとりすの麦草の根を
根り約込屋上の市小賣らるる末陽り一りの疫癘の患をのこす
とり後屋吉まりの方おとまきり此時代近辺の童子等を扱え
預けんとす○鷹塚浄小斎摩草の事日本中宝永元申来ふ
あり齋忍より預後り末長流中くまらる預らるゆたかり享保
六年乙卯小川若中乙酉載くも元ふらりり記する一記り
考をあらせり

○宝永中若老若中洞公実蔭に宮本市下向の所を
初めて月と花とを知らしめんとす

○家永元年板邊^{さかべ}乃^の平^{へい}の江戸^{江戸}家^家永^永は^は板^板邊^邊の^の下^下より^{より}て
 有^有棉^棉の^の島^島の^の南^南洲^洲の^の江^江戸^戸家^家永^永は^は板^板邊^邊の^の下^下より^{より}て
 軒^軒を^を並^並べ^べて^て飛^飛戸^戸の^の時^時候^候海^海天^天満^満ち^ちたり^り島^島の^の方^方か^か阻^阻り^りて^{あり}

210
3

正徳年表卷之三 畢

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7

五六
八

五江年表

四

240
4



武江年表卷之四

正徳元年 辛卯 五月七日改元

正月に日未別荘土蔵町お名殿倉とありお火為水風小随ひ村等其
有店海をまて武家町屋ともお火焼め別荘を

○正月十九日新和泉町とありお火乾風烈々々靈巖汚ふり
奮勇の焼失と云又 ○正月廿五日田光大原五百年忌あり 在御大原の
十町并り焼く

陰陽をぬふ ○二月は州土山田村お軍像像等ありて軍像
○二月まのたけお池の辺とありお火為水風烈々々延焼万敷ふ及り
新焼

○二月十五日とあり五月まで橋脇総領事とあり梅若丸妙春尼
の七百世二年忌とて圓向あり
本母ち縁起と云れ六
七百世二年忌あり

○正月朔田要將院主院小森才天勅法有る家小森

○正月五日より六月廿日まで水代より多く房州清流寺の虚空

流井宗帳○夏中より圓向院にて甲辰八月市協不勅宗帳

この時よき極楽法松屋三力徳といふ友より申す流流子にて創製一編あり其の
系傳ありとのりかき世の人の名をうらむべきより申す創製一編あり其の
法くといふもつとまじきと長尾家の評せんか
はして名符一と世の流流子といふなり

○七月よりこれ改め新吉原大門口の言れを改める

○八月にッ宝銀通用を止まる○八月九日大風

○九月十八日藤倉村暴雲より然厄禪尼のた極善く人の

○今年後辺東菴率百三十才○三橋橋筋社より今年より

非道七叔法といふ事を書けい始むはるは府社界記

○十月朝鮮人東渡正徳朝義徳副使任舟幹後事一書外正徳十一月廿日在江戸

と改め新井白木寺に宝徳堂と申す韓人のつとめをいひはる白石朝鮮人本と同言あり
筆法を納養法輯録して江戸之巻潭といふ写本一冊あり幸外正徳十一月廿日在江戸
肘白木源若菜新井能末坊 ○十一月廿八日親鸞上人に百五十五の念法念
燈下とあり一先より

○十二月八日就天上人坊と申す位蔵小令せしむ

○十二月十一日申別連雀町よりお火乾の風烈しく通町本銀町本

町石町に丁目までありは焼燬まで一石橋日本橋焼燬落雲巖
清まで焼燬同日夜宮刻火法揚り小は時連雀丁
八次田町焼小あり

正徳二年 壬辰

正月八日備前中邑留溪率名願言新八法系

○正月十一日一後小月三書凡亦焉新祥師巖約此言林とふ義次

○日本橋江戸橋のり度小流と改め○二月白木寺紅毛人乃

後福小のりて同對の事あり

○五月新金銀市吹替 ○五月二日品川本流土洋子源院始渡和

尚寂 石段院第の
下長せり ○八月六日より十五日まで増上寺の山内常照院卒

その光二寺の如く安堵 ○決國風儀 ○八月六日医原本下本林卒 元寺の父
布衣後を葬

○九月廿二日根津権現系終江戸町中練持あり 廿一日あり一雨天候
一版今日小蛇より

今年より一より二年より一より三より番敷五十番町敷百五十四丁あり一より二時の番付の曲亭

湯谷より一より番敷あり一より小畧一その夜必助のこをあらひ

熱門より茅町通西川家西根井田原村裏門通り馬平橋入井田橋より渡持院

裏あり元版田町田安ゆつを入竹橋をぶ終の口大冬小流瓶治橋は門ありうち町

通りよりより町也日本橋は日市土多をり直流而支より日本橋降り通り町

筋遠橋より上野より石川家前茅町より本社へ帰興あり一とあり

○十一月琉球人東渡 心候と那城王子
令武王子

○十一月に宝銀を以て新上銀小吹替あり

○十一月十一日夜光初辰己より戌迄光を若雷の如く震動し

心候入年乙未

三月廿一日儒作源貞訶亭卒 名直一名永常
外込正定院小葬

○三月廿二日徳島朝八十才あり尚齒命あり列済の案立参随翁 百二十
七才

小森園孫 百二十
六才 古結宗見 百八
才 石寺宗芳 九十
七才 下条七玄清 九十
一才 栄入

谷口一雲 九十
一才 忌中事の取 八十
三才

○四月日光山百年清神忌法会あり

○心候より享保よりあまで申橋度小流中へ益中夜小入西

より集り踊りをせざる ○十月十七日御入彌和卒 八十才西
本葬中葬

○十二月晦日夜半計りふ終の口辺よりあひりてお登橋は門内

教齊屋橋は門内まで申橋よりあひり橋までの町屋本挽町より

廻る正月元日夕く結火

此年間記事

石町日本橋呉服一火近地焼多々御舎もかけつる事折焚
柴の記も見えずなり○同十八日浅草寺日ヶ西辺より火入りて
本所深川多々焼亡り

○半蔵津川中橋法門清光法門古来のこと通徳をありぬ

○八月十五日能入山に素坐年七十五才弱以
岩澤院年

○十一月廿九日夜光持ぬ○十二月廿七日儒宗本道田年名なき
号菊

麻布屋後
寺小築○折焚柴の記新井白石在
編写本

享保二年 丁酉

雅苑群狂集 丁酉の〜後句

唐蕨河下りもあつた町や柴乃事
正親町公通

○正月廿二日東割小石川三坊根井を火入り火湯一火神田

後持院の莊しやうけん神田橋法門内銀治橋法門より惣屋の藩邸やい野
宇通町八丁地築地まゝ武蔵町を〜も野〜焼亡あり

○又後後持院を小日向の末小橋さす〜その海兵衛子橋はへいゑ御
本所在補海兵衛地とあり○正月廿二日能入北後浮世年はつ
十

小日向金剛
寺小築○二月十一日能入下村堤亭年保川法橋寺中
南持院小築

○六月後炮海船松町より約込富士権現一花万座をさす事
今年よりさす事○七月後炮海船尾止

○八月新金通年一乾金通用止三年限り
止

○八月十六日大風雨おを損

○十二月十二日神田横大工町より火入日本橋もまて焼矣

○同廿八日火入〜より牛込山伏町より火入魏町に谷芝田町まで

燒亡○十二月 日田津丘隅卒

武加川邊の西小向村ぬ光と云ふ華と云ふ者古冠者老人と云一年河内川の波を流る西あり

後長中列ふかゝりしと

享保二年 戊戌 十月至

其より存勢多富とありかゝり諸事とありし難

○二月十五日深川卒其より皇缺地病と今日よりありかゝり

其歳群集一の終りの終ひをさるよ一江戸ゆふのり

○二月廿二日備原園井黄陵卒

名孝祖 称孝を命 備原園井の卒

○五月朔日五郎年満町より火通町八丁堀辺築地まで焼亡

○五月十五日備原酒泉行卒

名弘 称孝を父傳 中見樹院行華と

○六月七日日本提儀示抗立立誓あり

○六月十八日館人其島亭外秋卒

六十七才卒 本姓と云華

○七月十五日祐天上人月忌不寂 八十二才 享保中二世祐海上人

送跡下寺を建てる祐天寺といふ

○八月廿六日備原之宅親園卒

年九十才 弱冠 院老と云華

○日代月市村作らゝ思妙室中道世一卒所小自院院とて寺と

院刻一院阿と号一短一けらう今卒十月十日と十二才と

大徳中をさるり ○十月廿日將時探儀と改卒

○十月亥智恵六百人ふ定る ○國十月新令銀引智恵始る

○十一月琉球人東渡

心後 船末と云

○十二月五日小石川白山社敷焼

○儀系と云旧家の麻店へ傳法院 傳心と云儀系麻の名をぬき

同日卒 己亥

○二月元日西の節日焼

ニナ年 ○二月十二日本町を月外津田焼火相と